

学会彙報

(昭和四十八年五月以降)

○新入会員歓迎会

(五月三十日 於真如堂)

一、開会の挨拶

雲井昭善会長

一、新旧会員自己紹介及び懇談

一、学会事務伝達

出席者 雲井昭善会長ほか七十余名

今年度より二回生も学会員に加える

ことになり、新入会員として文学部九

十八名、大学院二十名を迎え、正会員、

特別会員の総計は二百八十名となった。

○佛教学会例会——研究発表——

(六月二十八日)

一、中論における Prajñapti について

博士課程三回生 中川皓三郎氏

一、佛教学の在り方

横超慧日教授

出席者 雲井昭善会長他五十五名

○佛教学会例会——研究発表——

(十月二十五日)

一、原始佛教における正法について

特別研究生 野々目 了氏

一、小乗戒と大乘戒

佐々木教悟教授

出席者 雲井昭善会長他三十名

○人事移動(昭和四十八年十月一日付)

特別研究員

木村 宣彰氏

○会員出版書目

佐々木現順著「人間・その宗教と民

族性」八月、七八〇円、清水弘文堂

舟橋一哉著「仏教としての浄土

教」八月、二、三〇〇円、法蔵館

今夏は学会内においても外国行が盛

況であった。佐々木現順教授はパリで

開かれた国際東洋学者会議(七月十六日

〜二十四日)や、A Buddhist Moral

Concept—avijñapti—の二つ題のも

とに研究発表をされた。

また鍵主良敬助教授はケニヤからエジプトを経てインド・ネパールへ研究旅行された。長崎法潤助教授、三桐慈海助教授もインドへ研究旅行された。